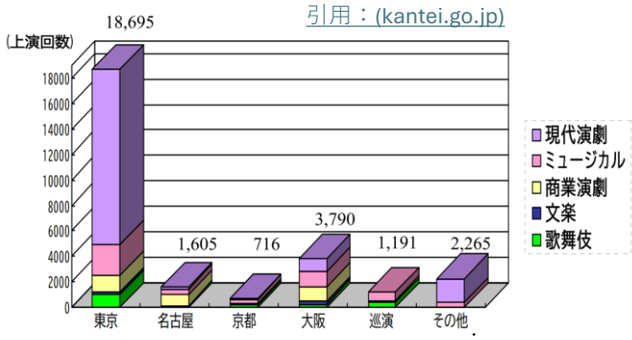
家が劇場に！？「劇場こそ我が家」

舞台を上演する場所といえば劇場のイメージが多くの人にあると思うが、空き家を劇場にして小演劇を上演する。
舞台役者からしたら劇場は家みたいなもの。家と同じぐらい落ち着く場所。
そこからインスピレーションを受けて、空き家を劇場にする案が思いついた。

引用：(kantei.go.jp)



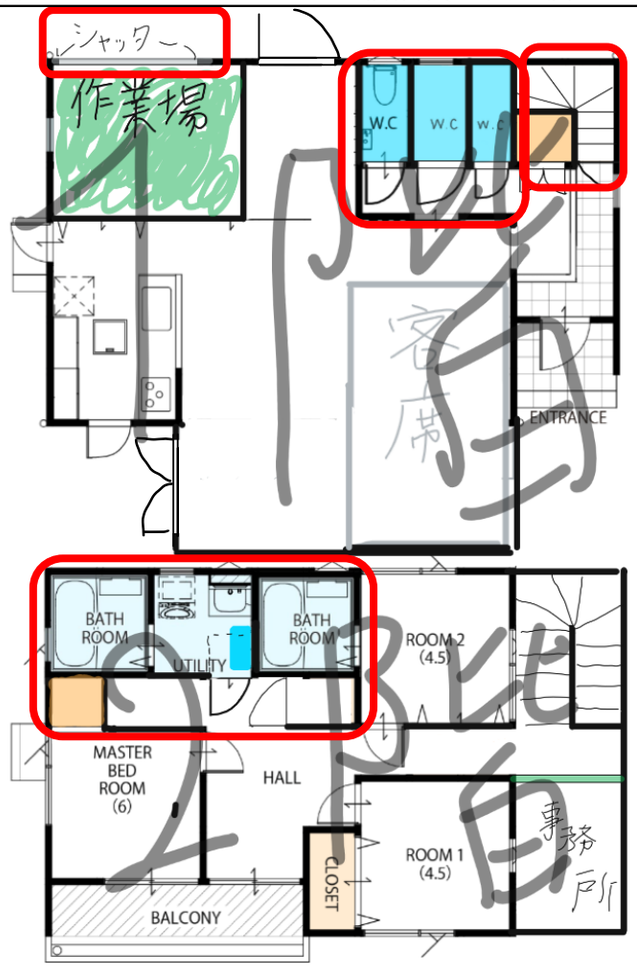
［日本が抱える問題］

①東京などの都市の一極集中型
②中小劇団は地方公演の実施が困難
③「経営」と「芸術」のバランスがとれない
④民間経営の劇場が相次ぐ閉鎖

上記の抱える問題を解決できるのが〈家劇場〉
日本中にある住宅街にたたずむ一軒家を使用することで、東京だけではなく①の問題である一極集中型が回避できる。家を劇場として使用することから②地方公演の実施ができる。
大道具のお金を削減できることから③バランスがとれる。普段は地域の人のために開放して、公演のときだけ貸し出す点から民間経営もできる。そして、何よりの魅力は「家」ということ。
舞台を上演するにあたり、地方公演の支出として、交通費・宿泊費が大きな支出になる。実際に泊まれるようにすることで宿泊費が安く済むし、劇場側も追加の収益となる。

［劇場使用時以外はどのように利用するか］

普通の劇場であれば、作品などで使用されない場合は、なにもない状態となる。しかし家劇場は違う。普段はワークショップなど劇場だけでなく幅広い分野を身近に感じてもらえるようなイベントを行い。住宅街だからこそお母さん世代や高齢者の方にプラスになるような行事も行う。しかし、劇場使用やイベントは週末行われることが多くなると思う。そこで、設備がしっかりしていることからドラマや映画などのスタジオなどでの使用もするころで経営していければと思う。



自分が思う［家劇場］を作ってみました。
お客様だけでなく劇場や役者も使いやすい色々な配慮をいれながら一部現実的ではない部分があるかもしれないですが、理想です。

［家劇場］のポイント

①シャッター付きの作業場
劇場に欠かせないのがセットなどを組み立てる作業場。例え組み立てなどの作業を行わなくてもシャッターから搬入などを行える。上演中必要のないときは音響や照明スタッフの作業場・控室へと変化する。

②お手洗いを多数設置
劇場に対する永遠の課題がトイレ問題。
舞台はまだまだ女性のお客様が多数を占める。
休憩時間などに殺到するため通常の家ではありえない３つ以上は設置するべき。

③お風呂
役者は毎公演、体を削って出演しているため、
終演後の汗の量は年間で変わらない。その汗を流すのがお風呂。
混み合わないためと、性別で変えられるように、湯舟はどちらでもいいが、２つ以上必要。

④出入口を多数設置
作品によって世界観・セットは変化する。作品の要望をいかにどれだけ対応できるかで、劇場の収益へつながっていく。少しでも対応できるようにするために、出入り・移動のできる出入口を多数設置すべき。

⑤階段の位置
小演劇の世界に「階段」は登場しにくい。少しでもシンプルにその世界を表現するかで、演出の力量がわかるほど。しかし、［家劇場］は施設利用者の宿泊施設も兼ねているため、お客さんからは少しでも見えない位置に配置する必要がある。そのため、玄関に階段を設置し、＋で見えないように扉をつける。